

「精神の自由について」（曾野綾子氏講演要約紹介）

今から約10年ほど昔、平成4年6月25日第28回高級幹部会同において、曾野綾子氏が「精神の自由について」と題して講演された内容の要約を何故か所有している。

これは、講師の生い立ち、日常生活およびアジア、中近東など豊富な海外旅行の経験から、信仰の怖さと職業に命をかける精神の自由を説かれた内容であり、人間を動かす「愛」の大切さ、新約聖書のなかの「勇気」と「癒し」などを引用され、「公僕としての精神の自由」を、「これからの自衛隊員としての勤務にかかる哲学」と絡めた興味深いもので、約10年経過した今も新鮮に受け止めることができる、と考えたので新年最初の勤務参考として紹介することとする。

精神の自由について（所要時間約50分）

1 はじめに

(1) 恵まれた現代の日本において、本当に自分の「精神の自由」をもっている人がどれだけいるか、非常に疑問に思う。

(2) 本当の人生の意味について考えてみよう。

ア 恵まれた国に、ノイローゼ、鬱病が多いのは、人生の目的が無く、不幸が無いから幸せもない。

イ 貧しい地域では、その日の糧を得ることが重大な人生の目的であり、糧を得ることが大きな喜びである。

ウ 貧しさの中で貴重な一個の菓子を他人に与えることの中に大きな幸福を見いだせる才能を持ち合わせたインドの老人の話。

エ 修道女は、年中無休、無給で365日働いていた。一つのことでも命をかけないとできないという発想。

オ 人間の職業は、好き勝手に好き好んでやるのが本当のことであり、命をかけるか、かけさせられるかが問題である。戦前の生き方と戦後の生き方に違いはこの点にある。

カ 自由意志において好んで職業を選ぶ多くの場合は、命をかけることになるであろう。どんな職業にも命をかけた方が良い。

2 本論

(1) はじめに述べた精神になるのに、具体例として掃海派遣部隊の話。

多くの人の命を救い、とても良い顔をしていた。

(2) 人間の向上を決めるのに非常に大きく影響のあるものに神の存在がある。

心に神の存在を認めるか認めないかで非常な違いがある。すなわち自分がどのように生きるかに関わってくるからである。

(3) 神を信じる人間の状況というものを良く分かれ。

ユダヤ、キリスト、イスラム教の神は、絶対者であって、覚えたものをずっと記憶

しているとしている。それほど信仰というものは怖いということである。

(4) 神を持っている人間は怖い。

中近東、アフリカでは、日本の理論は通じない。これらの地域で貧しい者、病んだ者を救うのは一族の中で一番の金持ちである。いわゆる慈悲の精神の存在である。

(5) シナイ半島でのガソリン補給の話。

どんな者も困った人間を助けなければならない。親戚のようなもので決まる。

(6) 日本人は、悪いこともしない代わりに、なんの親切もしない。

アラブ人との人間性の違いは「人間の精神が自由でないこと」だ。

(7) サハラ砂漠とスーダンでの話しを通しての人の優しさと考え方。

自分の道を選ぶに当たって「人間は自ら承諾のもとに、自らの責任において、自ら選んで、究極の美を追求していかなければならない。」

3 まとめ

(1) 何が本当に人間を人間らしくするのであろうか。

人間を動かす、人間として弱くも強くもできるのは、本当の意味で「愛」である。

日本人は、いい年になると愛を与えない。

日本人以外は、すべて生涯をかけて愛とは何であるかについて苦しんで生きている。

(2) 今の日本では、危険があるとしない。

危険がある時に人生は見えてくる。そしてその背景にあるものは自分と人間の深い愛である。

(3) 理性が、人間にこうあれと命ずる愛の形だけが唯一の愛である。

(4) ギリシャ語の「勇気」という言葉が持つ五つの意味

・ 卓越している ・ 男らしさ、力 ・ 勇気 ・ 徳 ・ 奉仕、貢献

(5) 我々は常に癒していくわけである。

ギリシャ語に「癒す」という言葉が二つあり、それぞれ異なる意味を持つ。

・ ソッゾー : 保つ、見つめる、心にどどめる、記憶する

・ シェラペウオ : 治療する、仕える

(6) 公僕というものは、市民に仕えるものである。

力ある者のみが、耐え、仕え、心に深くとどめ、人間的であることを保つということとは、これからの自衛隊の勤務に大きく関わってくる哲学である。これは誰かが命令するものではない。

(7) これは一人一人が自分の正義において、正義的な感覚において発見し、そのことによって人生を楽しく送るために必要なものであり、その限りにおいて初めて我々が自由になれるのではないかという気がする。

(開発官付言) ; 哲学的で解りにくいかもしれないが、なんとなく自分の精神に少しでも自由さを見出す事ができれば、あるいは精神に自由を見出そう、自らを解き放つ感じが芽生えれば、それで良しとしたい。

以上